

【山崎主宰の俳句】

かくて冬

山崎 聰

十二月たちまち失せて持ち時間  
極月が荒野を凜と来たるかな  
通り抜けたる北風の先が海  
十二月あしたの風のこえを聞く  
鬼火ともみちのくははるかに暮れて  
吹く風のひとりに寒く塞の神  
新十二月ごつごつと父母祖父母  
もとよりの言語道断空つ風  
十二月八日の朝の地鎮祭  
葡萄酒と壺の岩塩かくて冬